農学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
学生の確保（人）			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	1年次	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)	— ※ — (—)
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
	3年次編入学	— ※ — (—)	— ※ — (24)	— ※ — (8)	— ※ — (22)	— ※ — (8)	— ※ — (30)	— ※ — (19)	— ※ — (8)

	博士課程修了		論文博士	博士課程修士
学位授与数（人）	修了年次定員	修了者数	授与数	授与数
	37 (37)	42 (45)	4 (0)	1 (2)

	論文・著書発表数	学会発表数	受賞・表彰等
学生の研究活動（件）	96 (77)	88 (120)	10 (5)

		教員	企業	公務員	研究員（学術振興会）	その他
学生の進路（人）	修了者	3 (—)	3 (3)	1 (4)	15 (4)	20 (23)
	退学者	— (—)	— (1)	— (1)	2 (—)	6 (4)

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は，中間評価の合格者数を示す。
・（ ）は前年度の数値を，※は外国人留学生を内数で示す。

1　農学研究科の活動

本年度も昨年同様の学位取得者をだした。そのうち外国人留学生は約35%と高い割合を占め，本研究科が行っている複数教員指導制のアドバイザリコミティが機能していることを示している。

2　教員の教育業績評価の状況

本研究科では教員の業績評価は構成専攻に対応する学系に委ねており，具体的には実施していない。しかし，教育業績の評価の指標である学位取得者数は昨年同様の成果を挙げている。また学生の研究活動のうち，論文・著書発表数および受賞・表彰等は昨年度のそれを大きく上回り，本研究科教員は十分な教育成果を挙げていると思われる。

3　自己評価と課題

学位取得者数については昨年度に引き続き一定の成果が得られ，評価できる。また，論文・著書発表数および受賞・表彰等は学生数が減少したにも拘らず昨年度を大きく上回り，特筆できるものである。しかし，将来論文・著書につながる学会発表数は昨年度の70%に減少した。これは一昨年度の50%に相当する。学生数の減少も要因のひとつであるが，より一層の努力が必要と思われる。来年度は農学研究科最後の年にあたるが，多くの学生が在籍しており，より多くの学生が学位取得できるように強力な教育・指導が必要と思われる。学生の進路先は教員・企業・公務員を合わせて約30%と低く依然として学位取得者の就職は困難であり，就職先の開拓が必要と思われる。